

# 看護学生の学習への取り組み状況

## － 2年次と3年次の縦断的比較－

滝内隆子<sup>1)</sup> 大島弓子<sup>2)</sup> 佐々木真紀子<sup>3)</sup> 南雲美代子<sup>4)</sup> 酒井志保<sup>5)</sup>

### **The State of Learning Effort among Student Nurses Through a comparative survey to the second and the third grade students**

Takako TAKIUCHI Yumiko OSHIMA Makiko SASAKI Miyoko NAGUMO Shiho SAKAI

**要旨：**学習者1人1人の学習への取り組み状況やその変化を把握することは、教育計画立案や教育方法を工夫するうえで重要であると考え、本学看護学科の学生を対象に、学習への取り組み状況について質問紙による調査を2年次と3年次に行った。78の有効回答を集計した結果、以下の結論が得られた。

1. 項目別の学習への取り組み状況は、①事前学習は、2年次・3年次ともに「充分おこなえた」と「充分おこなえなかった」が半数ずつであった。②看護技術のトレーニングと③レポート・課題は、2年次・3年次ともに約85%以上の学生が「充分おこなえた」であった。
2. 3項目を総合した学習への取り組み状況は、2年次・3年次ともに約90%以上の学生が『取り組みがよい』であった。
3. 個人別にみた学習への取り組み状況の変化は、2年次と3年次で変化しなかった学生が多かった。また、変化しなかったのは『取り組みがよい』であった。

**キーワード：**看護学生、学習、取り組み、縦断調査

**Summary :** This study attempts to grasp the state and change of learning effort among students, which will affect our educational plan and ways of instruction. To grasp the state of learning effort, a survey by questionnaire sheets was executed to the second and the third grade students of our college.

78 valid replies were analysed, and concluded as follows :

1. The state of effort concerning each learning item ;
  - 1) As to preparatory learning, students evaluated their effort as “sufficient” or “not sufficient” , which marked 50% respectively.
  - 2) As to the training of nursing techniques, over 85% of the students of each grade evaluated their effort as “sufficient” .
  - 3) As to the report and the assignment, over 85% of the students of each grade evaluated their effort as “sufficient” .
2. Generalizing three learning items, over 90% of the students of each grade evaluated their state of effort as “satisfactory” .
3. As to the state of individual effort, most student changed little their evaluation during the two grades. And the “satisfactory” state of evaluation did not change.

**Keywords :** Student Nurse, Learning, Learning Effort, Survey

---

看護学科 1) 3) 助教授 4) 5) 助手 2) 山梨県立看護大学看護学部教授  
本研究は、第25回日本看護研究学会学術集会において、発表したものをまとめたものである。

## はじめに

教授・学習活動を効果的に進めていくうえで、学習者1人1人の学習への取り組み状況を把握することは、その学生に合った有効な教育的アプローチの開発につながると考えられ、教育上必要なことであると思われる。

また、看護基礎教育では、当然のことながら、学生が初めて看護に関する専門的な講義に取り組むこと、さらには、神郡<sup>1)</sup>も述べているように他の領域の短期大学生に比し、過密なプログラムの中で学習を重ねるといった特徴がある。学生はこのような中で、どのように学習に対する取り組みをしているのか、その状況を把握し、有効な教育計画を立案したり教育方法を工夫するなどの教育的アプローチを考えることは重要と思われる。

さらに、この学生の学習への取り組み状況は、はじめ看護に関する専門的な講義を受けながら、1年間の学習を積み重ねた2年次当初の学生と、その後さらに、より多様な専門科目や臨地実習などの学習を積み重ねた3年次当初の学生では変化することが考えられる。そして、このような学習への取り組み状況の変化を把握することも、教育計画立案や教育方法を工夫するうえで重要であると思われる。

そこで、日本赤十字秋田短期大学（以下、本学とする）の学生の学習への取り組み状況とその変化について、同一の学生集団に対し、縦断的に2年次調査<sup>2)</sup>（以下、2年次とする）と3年次調査<sup>3)</sup>（以下、3年次とする）を各年度当初の授業開始時におこなった。

先行研究は、看護学生を対象にした澤井ら<sup>4)</sup>の自己学習能力に関するもの、川野ら<sup>5)</sup>や野副ら<sup>6)</sup>の学習態度に関するもの、國岡ら<sup>7)</sup>の学習意欲に関するものなどはみられたが、学習への取り組み状況について縦断的に調査したものは、みあたらなかった。

なお、この研究は2年次と3年次の年度当初の授業開始時に実施した調査の一部である。

## I. 研究目的

看護学生の2年次と3年次の学習への取り組み状況とその変化を明らかにする。

## II. 研究方法

1. 対 象：縦断調査に協力が得られた本学看護学科の1期生78人

## 2. 方 法

- 1) 2年次・3年次調査ともに、自作の質問紙を用いた集合調査。被調査者には、調査の目的、分析方法を説明し、了解を得たうえで記名式で実施した。
- 2) 調査内容：項目は、2年次・3年次ともに、基礎看護学に対する①事前学習、②看護技術のトレーニング、③レポート・課題への取り組み状況の3項目で、多肢選択法とした。
- 3) 集計・分析方法：集計・分析方法は、以下のようにおこなった。
  - (1) 2年次・3年次ともに、調査内容①～③をそれぞれ「充分おこなえた」と「充分おこなえなかった」に分類し、項目ごとに単純集計した。
  - (2) 2年次・3年次ともに、調査内容①～③の3項目のうち「充分おこなえた」が2項目以上を『学習への取り組みがよい（以下、取り組みがよい）』、1項目以下を『学習への取り組みがよくない（以下、取り組みがよくない）』の群別に分類し、その群別の人数を単純集計した。
  - (3) (1)と(2)の集計結果を2年次と3年次で比較、分析し、差を明確にするために $\chi^2$ 検定をおこなった。
  - (4) 個人別に2年次と3年次の学習への取り組み状況を比較、分析した。

3. 調査時期：2年次調査：平成9年4月  
3年次調査：平成10年4月

## III. 結 果

### 1. 有効回答者数

2年次・3年次ともに有効回答者数は78人であった。

### 2. 項目別の学習への取り組み状況

#### 1) 事前学習（表1）

基礎看護学の講義に臨むための事前学習については、2年次では「充分おこなえた」と「充分おこなえなかった」が各39人（50%）ずつであった。

3年次では「充分おこなえた」が41人（52.6%）、「充分おこなえなかった」が37人（47.4%）であった。

事前学習については、2年次・3年次ともに

「充分おこなえた」と「充分おこなえなかった」は約半数ずつであった。

## 2) 看護技術のトレーニング (表1)

看護技術のトレーニングについては、2年次では「充分おこなえた」が73人(93.6%)、「充分おこなえなかった」が5人(6.4%)であった。

3年次では「充分おこなえた」が66人(84.6%)、「充分おこなえなかった」が12人(15.4%)であった。

看護技術のトレーニングについては、2年次・3年次ともに「充分おこなえた」が多かったが、両者の間には有意な差はみられなかった。

## 3) レポート・課題 (表1)

基礎看護学の講義で課されたレポート・課題に対する取り組みについては、2年次では「充分おこなえた」が75人(96.2%)、「充分おこなえなかった」が3人(3.8%)であった。

3年次では「充分おこなえた」が73人(93.6%)、「充分おこなえなかった」が5人(6.4%)であった。

レポート・課題に対する取り組みについては、2年次・3年次ともに93%以上の学生が「充分おこなえた」であった。

表1 項目別にみた取り組み状況の学年別比較

	事前学習		看護技術		レポート・課題	
	充分おこなえた	充分おこなえなかった	充分おこなえた	充分おこなえなかった	充分おこなえた	充分おこなえなかった
2年次N=78	39(50.0)	39(50.0)	73(93.6)	5(6.4)	75(96.2)	3(3.8)
3年次N=78	41(52.6)	37(47.4)	66(84.6)	12(15.4)	73(93.6)	5(6.4)

単位:人(%)

## 3. 3項目を総合した学習への

### 取り組み状況 (図1)

①事前学習、②看護技術のトレーニング、③レポート・課題の3項目を総合した学習への取り組み状況については、2年次では『取り組みがよい』が70人(89.7%)、『取り組みがよくない』が8人(10.3%)であった。

3年次では『取り組みがよい』が69人(88.5%)、『取り組みがよくない』が9人(11.5%)であった。

3項目を総合してみた学習への取り組みについては、2年次・3年次ともに約90%の学生が『取り組みがよい』であった。

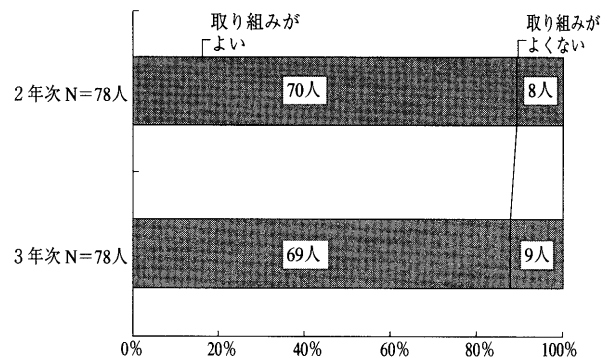


図1 3項目を総合した学習への取り組み状況の学生別比較

## 4. 個人別の学習への

### 取り組み状況の変化 (表2)

個人別にみた学習への取り組み状況の変化については、2年次と3年次で変化がなかった学生は67人(85.9%)で、その内訳は、2年次・3年次ともに『取り組みがよい』が64人、両者ともに『取り組みがよくない』が3人であった。

一方、学習への取り組み状況が2年次から3年次になって変化した学生は11人(14.1%)で、その内訳は、3年次になって『取り組みがよくない』に変化した学生が6人、『取り組みがよい』に変化した学生が5人であった。

表2 学習への取り組み状況の変化

	2年次	3年次	人数
変化なし	取り組みがよい	→ 取り組みがよい	64人
	取り組みがよくない	→ 取り組みがよくない	3人
変化あり	取り組みがよい	→ 取り組みがよくない	6人
	取り組みがよくない	→ 取り組みがよい	5人

N=78 (単位:人)

## IV. 考察

### 1. 項目別の学習への取り組み状況について

基礎看護学に対する①事前学習、②看護技術のトレーニング、③レポート・課題の3項目のうち、2年次・3年次ともに、②看護技術のトレーニングと③レポート・課題の両者については、「充分おこなえた」が多かった。

これは、看護技術のトレーニングやレポート・課題などの学習する内容が明確になっているものは取り組みやすいが、事前学習のように自分で学習課題を見いだして行うものについては、取り組みにくいと考えられる。横山ら<sup>8)</sup>も学生は新たな学習内容を学ぶ際、目標や計画を立てて自発的に取り組みことに難しさを感じると述べている。

教授・学習活動を進めていくうえで、学習課題

を明確にし、学生が学習に取り組みやすい状況を整える一方で、学生自身が主体的に自己の学習課題を見いだして、学習活動に取り組んでいくような教育的アプローチが必要であると考ええる。

次に、2年次と3年次では、看護技術のトレーニングでは、有意な差はみとめられなかったが、3年次が「充分おこなえた」が減っている。これは、多様な専門科目の講義や臨地実習が多くなるにしたがって、練習する十分な時間がとれないことも影響していると考えられる。看護ケアを行う上で様々な看護技術の習得は必須であり、その習得には実施できるまでの反復学習が必要である。したがって、教育計画を立案する時に、学生が充分練習する時間がとれるように、また、その必要性を学生に十分意識づけられるような教育的配慮が必要であると考ええる。

## 2. 3項目を総合した学習への

### 取り組み状況について

①事前学習、②看護技術のトレーニング、③レポート・課題の3項目を総合した学習への取り組み状況については、2年次・3年次ともに『取り組みがよい』が多かった。

村田<sup>9)</sup>は、看護学生を対象にした学習意欲に関する縦断調査を通して、看護を学びはじめて1年後の学生は、大部分が看護の学習内容に興味、新しい気づき、共鳴を感じており、全体として積極的な態度（学習意欲）が認められる。また、その後の臨地実習を通して、看護の対象に直面し、そのケアを直接体験することにより、専門的能力を獲得することの必要性を感じ、看護に対する本物の学習意欲を深めていくと述べている。

本学の学生も、はじめて看護に関する専門的な講義を受けながら、1年間の学習を積み重ねていく中で学習内容に興味や楽しみをもつようになる。その後さらに、より多様な専門科目や臨地実習などの学習を積み重ねていく中で、専門的な知識・技術を習得する必要性を痛感する。この2点が、2年次・3年次ともに学習への取り組み状況がよいことにつながっているのではないかと考えられる。

専門職を志向する看護者としては、主体的に継続学習する姿勢を身につける必要がある。したがって、学習への取り組みがよい学生に対しては、それが卒業後も継続できるように、一方、取り組みがよい学生に対しては積極的に学習に取り

組む姿勢が身につくような教育的アプローチが必要であると考ええる。

## 3. 個人別の学習への取り組み状況の変化

個人別の学習への取り組み状況の変化については、2年次・3年次ともに学習への『取り組みがよい』学生、また、3年次になって『取り組みがよい』に変化した学生がいる一方で、少数ではあるが両学年ともに『取り組みがよくない』や3年次になって『取り組みがよくない』に変化した学生がいた。

村田<sup>10)</sup>は、多くの学生にとって、看護の理念や看護婦の理想像を学習することは、入学当初に持っていた学習意欲を高める。しかし、その一方で、これらの学習内容を通して自分は看護の使命を果たせるかや自分にできるのかといった心理的動揺や混乱が学生自身の中に生ずると学習意欲は低下すると述べている。また、多くの学生は、臨地実習を通して、実際に患者と接する中で、自己の人間の未熟さと専門的能力の不足を感じるが、悩み・葛藤しながら克服していく。しかし、それを克服できない学生は、学習意欲が低下するだけでなく、その状態が長期間続くことがあると述べている。また、川野ら<sup>11)</sup>は、学年と学習態度との関係について、統計上の有意差はないとするものの、教師をあてにする依存的な学習態度が学年を増すごとに上昇し、主体的な学習態度が身につけていない学生がいると述べている。これらの調査結果と同様のことが、本学にもいえるのではないかと考えられる。つまり、本学においても看護に関する専門的な講義や臨地実習での体験などは、多くの学生の学習に対する取り組み姿勢を喚起させる。しかしその一方で、一部の学生にとっては、心理的な動揺や混乱をもたらし、しかもそれを克服できないことが要因になって学習への取り組みを低下させていると考えられる。また、本学入学前に身につけた教師に依存する学習姿勢を変えられないことも、学習への取り組みを低下させる要因になっているのではないかと思われる。

2年次・3年次ともに学習への『取り組みがよくない』学生や、3年次になって学習への『取り組みがよくない』に変化した学生について、我々は、その原因の把握に努めながら積極的に学習に取り組めるように、個別に対応した教育的アプローチが必要であると考ええる。

本研究の限界は、基礎看護学に対する学習への

取り組み状況のみでその他の科目については分析していないこと、また、1学年の調査であるため一般化できないこと、さらには学生の主観的な観点からの評価であるため、その点を考慮すべきことがあげられる。

今後の課題は、この限界に挑戦することと、学生の学習への取り組み状況やその変化を継続的に調査しながら、それを教育に反映させていくことである。

## V. 結論

今回の調査により以下の結果が得られた。

1. 項目別の学習への取り組み状況は、①事前学習は2年次・3年次ともに「充分おこなえた」と「充分おこなえなかった」が約半数ずつであった。②看護技術のトレーニングと③レポート・課題は、2年次・3年次ともに約85%以上の学生が「充分おこなえた」であった。
2. 3項目を総合した学習への取り組み状況は、2年次・3年次ともに約90%の学生が『取り組みがよい』であった。
3. 個人別にみた学習への取り組み状況の変化は、2年次と3年次で変化しなかった学生が多かった。また、多かったのは『取り組みがよい』であった。

## おわりに

本研究の調査にご協力くださいました本学の看護学科1期生の皆様に心より、お礼申しあげます。

## 引用文献

- 1) 神郡博：新カリキュラムに対する評価 看護学に必要な新しいシフト, *Quality Nursing*, 2 (2), p19, 1996.
- 2) 滝内隆子, 大島弓子, 佐々木真紀子, 南雲美代子, 酒井志保：看護学生の学習への取り組み状況－2年次と3年次の縦断的比較－, *日本看護研究学会雑誌*, 22 (3), p237, 1999.
- 3) 前掲2), p237.
- 4) 澤井映美, 阿部典子, 村本淳子, 金澤トシ子, 鈴木玲子, 國澤尚子, 大森武子：看護学生の自己学習能力の認識 (第2報)－入学時と1年終了時の比較－, *日本看護研究学会雑誌*, 19 (3), p96-97, 1996.
- 5) 川野雅資, Laura Flannelly, Kevin Flannelly：学生の学習態度に関する研究, *看護教育*, 30 (2),

p88-91, 1989.

- 6) 野副美樹, 村本淳子, 行広栄子, 川野雅資：本学学生の教室内における学習態度に関する研究, *東京女子医科大学看護短期大学研究紀要*第15号, p53-60, 1993.
- 7) 國岡照子, 丹下純子：看護学生の気分が学習意欲に与える要因, *川崎市立看護短期大学紀要*, 15 (3), p1-9, 1998.
- 8) 横山由美子, 阿部修子, 阿部典子：看護技術に関する学習意欲－基礎看護技術の授業前後の比較－, *日本看護研究学会雑誌*, 20 (3), p231, 1997.
- 9) 村田恵子：看護学生の学習意欲の深まりと看護観の変容, *看護展望*, 5 (4), p19-20, 1980.
- 10) 前掲9), p20.
- 11) 前掲5), p91.

## 参考文献

- 阿部典子, 村本淳子, 金澤トシ子, 澤井映美, 鈴木玲子, 國澤尚子, 大森武子：看護学生の自己学習能力の認識 (第1報)－東京女子医科大学看護短期大学基礎看護フュトリアル (TFN) の学習体験を通して－, *日本看護研究学会雑誌*, 19 (3), p96, 1996.
- 森田チエコ, 小野寺杜紀, 波多野梗子：看護学生の学習状況の変化とそれに関連する要因の研究, 第10回看護学会集録教育分科会, p91-93, 1979.
- 村田恵子：看護学生の学習意欲の深まりと看護観の変容, *看護展望*, 5 (4), p18-23, 1980.
- 野副美樹, 村本淳子, 行広栄子, 川野雅資：本学学生の教室内における学習態度に関する研究, *東京女子医科大学看護短期大学研究紀要*第15号, p53-60, 1993.
- 横山由美子, 阿部修子, 阿部典子：看護技術に関する学習意欲－基礎看護技術の授業前後の比較－, *日本看護研究学会雑誌*, 20 (3), p231, 1997.